

新病院整備の進捗状況について

1 『こども病院移転計画調査委員会』について

(1) 委員会の設置について

設置日 平成 23 年 1 月 30 日

委員 北川正恭委員長 他 10 名

(法曹, 医療等の専門委員, 患者家族, 市民代表)

調査内容 こども病院のアイランドシティ移転を決定したプロセスの合理性, 妥当性についての検証

(2) 会議の経過及び調査項目

【会議の経過】

平成 23 年 1 月 30 日から平成 23 年 5 月 15 日までに計 7 回開催

【調査項目】

平成 19 年度の市立病院統合移転事業検証・検討に沿って, 以下のとおり調査項目を定め, 検証を行った。

- ① こども病院・感染症センターの現状と課題
- ② 改修の可能性について
- ③ 現地建替えの可能性について
- ④ 移転新築の整備場所について
- ⑤ 現地建替えを含む比較検討について

(3) 調査結果

① アイランドシティ移転を決定したプロセスの合理性, 妥当性について

プロセスの一部に妥当でないところがあったが, 全体としてはおおむね合理性・妥当性はあったとする意見, 現地建替え費用を 1.5 倍とするに至った経緯の他, 比較手法にも妥当性を欠いていたなど, 全体としてプロセスには, 合理性, 妥当性に欠けていたとする意見があった。

なお, 前回のアイランドシティ移転の検証・検討を市役所内部のみで行い, 真摯に市民に説明し, 理解を得ようとする姿勢に欠けていたなどを理由に, 市の仕事の進め方(ガバナンス)に課題があったとの意見が出され, こうした仕事の進め方が, 市役所の信頼を損なっているとの指摘を受けた。

② 現況における候補地に関する委員意見

前回の検証・検討時から, 候補地によって, 土地の現況に変化が生じていることや, 東日本大震災の発生により, 耐震・免震構造, 液状化対策, 津波対策等の必要性があらためて認識されるようになった。本調査委員会のミッション外ではあるが, こうした変化を踏まえ, 各委員から出された各候補地の現況における長所・短所, 課題などについての意見が一覧表にまとめられた。

2 調査委員会の報告を受けて

(1) 福岡市医師会への協力要請

平成23年5月16日 市長が医師会を訪問

↓
<内容> 小児地域医療の現状に関する意見交換を行い、仮にこども病院が移転とした場合の西部地区における小児2次医療提供体制の確保について、医師会に検討、協力をお願いした。
医師会側から、文書での申し入れについて要請があった。

平成23年5月17日 医師会長宛に文書を送付

↓
<内容> 「小児2次医療提供体制の確保について」
「(省略) 仮にこども病院が移転とした場合の西部地区における小児2次医療提供体制の確保について、ご検討、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。」

平成23年5月23日 医師会より全面的協力の回答

↓
平成23年5月24日 医師会長同席のもと、市長会見

<内容> 地域医療を担う医師会として、全面的に市長の要望に応えるという結論となった。

(2) 地震、防災等の専門家との意見交換（平成23年5月18日）

東日本大震災の発生以降、市民の地震災害に対する不安感が非常に高まっていること、また調査委員会でも、地震や津波、液状化への対応について様々なご意見をいただいたことから、大震災を踏まえた安心・安全なまちづくりの推進にあたり参考とするため、専門家と意見交換を行った。

<出席者>

- 相手方：九州大学工学研究院 大塚 久哲 教授（地震工学，耐震工学，構造工学）
善 功企 教授（土木工学，防災地盤学，海洋地盤学）
橋本 典明 教授（海岸工学，海洋工学，沿海防災学）
九州大学人間環境学研究院 蜷川 利彦 教授（建築構造）
九州大学理学研究院 竹中 博士 准教授（地震学，地震工学）
●市側：高島市長，大野副市長，山崎副市長，福岡市都市防災関連部署職員（9名）

<主な意見>

- ・九州の北岸・西岸は、プレート境界型の地震がなく、それが原因で津波を起こしたような地震は記録の上では残っていない。（橋本教授）
- ・福岡における地震は、まずは直下にある活断層を想定すべきであり、耐震化は非常に重要。（竹中教授）
- ・「免震構造」は、地震時でも建物がほとんど揺れないため、災害時の病院機能維持に有効。（蜷川教授）
- ・平成8年以降の基準で作った橋であれば、西方沖地震を超える大地震でも大丈夫であるが、橋に繋がる道路を含め、トータルとして機能するかどうか重要。（大塚教授）

- ・粘土で埋め立てられたところは、まず液状化が起こらないと考えて良い。また、砂で埋め立てられたところについても、きちんと対策すれば、液状化は起こらない。(善教授)
- ・想定を超えるようなものに対しては、(避難対策などの)ソフト面での対応が必要。(蜷川教授)

(3) こども病院スタッフとの意見交換 (平成23年5月23日)

現場スタッフの意見を聞くため、こども病院の医師、看護師、技師等と意見交換を行った。

<出席者>

○相手方：医師，看護師，放射線技師，薬剤師，検査技師，事務職員 計12名

●市側：高島市長

<主な意見>

- ・早く広いスペースでよい環境を整備して欲しい。
- ・現地建替えの場合、顕微鏡を使用した手術は、振動がある状況では困難である。
- ・移転計画があるため機器の更新を見合わせているような状況があり、長期化すれば現場の士気の維持が難しい。
- ・手術室を増やしてほしい。術後の管理スペースも狭くぎりぎりの状況。
- ・患者搬送の面から考えると、手術室や集中治療室などは極力ワンフロアが望ましい。

3 新病院の整備場所等について (平成23年5月24日市政運営会議方針決定)

<決定事項>

こども病院の整備場所をアイランドシティとする。

なお、整備にあたっては、次の2点を踏まえる。

- ① 防災対策には十分に配慮する。
- ② 医師会の協力を得て、地域医療の体制を万全なものとする。

<主な意見>

- ・求める病院の姿が、高度医療と地域医療でバラバラのまま議論が進められてきた。病院の医師や行政は、高度医療を実現するために、一定以上の広さを確保でき、早期に整備可能なアイランドシティを選択した。一方で現在のこども病院は地域医療の核としての役割も担っている。前回の整備場所決定において、地域医療を求める声に対してケアが足りなかったのではないか。
- ・高度医療を実現するのであれば、一定以上の広さでできるだけ早期に整備する。そのためには場所はアイランドシティしかない。地域医療にどう対応するか。医師会に、小児地域医療に関しての協力を正式に要請した。医師会長から、医師会に地域医療を担っていただける、現在地もしくは現在地周辺で2次医療をしっかりとやっていただけるとのお話をいただいた。
- ・PFIの手続きを再開するにあたっては、防災対策、災害に強い病院という点について万全にしてほしい。

4 今後のスケジュールについて

新病院整備事業については、PFI手法を採用することとしており、今後の事業はPFI事業者（落札者）を主体に進められることとなるが、開院日については一日でも早い開院を目指す。

内 容	日 程	
	変更後	変更前
落札者の決定	平成23年8月22日（月）	平成22年12月22日（水）
基本協定の締結	平成23年8月下旬	平成22年12月下旬
事業契約の締結	平成23年10月下旬	平成23年2月下旬
設計・建設・準備期間	平成23年10月～ 平成26年10月末	平成23年2月～ 平成26年2月末
開院日	平成26年11月1日	平成26年3月1日